

## 令和7年度ICT研修会

情報支援部／研修支援部

### 1 はじめに

本研修は、急速に進化する教育現場のデジタル化に対応し、ICT 技術を効果的に活用して教員の指導力向上と校務の高度化を図ることを目的として実施した。

現代の教育環境において、ICT 活用やクラウドサービス、そして生成 AI などの先端技術は、単なる補助ツールではなく、児童生徒の主体的な学びを引き出し、教員の業務効率を劇的に改善するための不可欠な基盤となっている。しかし、その活用度には個人差があり、組織全体としての活用能力の底上げが急務となっている。

こうした背景を踏まえ、本研修では以下の3点を柱としてプログラムを構成した。

研修①：基礎的な ICT 機器の活用能力のボトムアップを図り、全教員が共通のスタートラインに立つこと。

研修②：Google Workspace 等のシステムを駆使し、より高度で実践的な教材作成や情報共有のスキルを習得すること。

研修③：AI の教育活用に関する最新事例や倫理的側面を学び、次世代の教育手法を展望すること。

実践的な演習を通じ、参加者が日々の教育活動における具体的な課題を解決し、自信を持って ICT 機器を使いこなせるようになることを目指した。以下に、本研修の各プログラムの概要とその成果について報告する。

### 2 概要

日時	令和7年8月26日（火）13:30～15:15
場所	刀根山支援学校本校（多目的ホール・会議室・音視室）
講師	情報支援部担当教員3名、研修支援部担当教員1名
対象	刀根山支援学校教員 研修参加者：19名
テーマ	ICT 研修 研修①ICT 活用能力のボトムアップ研修 研修②Google システム活用のスキルアップ 研修③AI の教育活用について

### 3 内容

#### 研修①【ICT 活用能力のボトムアップ研修】

目的：Power Point や、Keynote などのプレゼンテーションソフトを作成、利用する上での要点を押さえ、操作方法を実践的に学ぶ。

参加：教員3名

内容：研修の展開としては、次のような形式を予定していた。

①見やすいスライドとは ②基本操作 ③応用操作 ④keynote の使い方

①でスライドを作成するうえで、見やすい文字のサイズやフォント、文字や画像の配置、見やすいアニメーションの演出等を良い例、悪い例を見比べて、めざすべき見やすいスライドのイメージを持つことができるようにした。

## II 校内研修

②③はプレゼンテーションソフトを利用する上で、習得したい基本操作を操作マニュアルを見ながら、項目ごとに課題形式で取り組んだ。課題の答えはすべて動画で配信し、自ら学べるように工夫をしたため、それぞれの教員が前向きに自分のペースで取り組む姿勢が見られた。実際にはほとんどの教員が時間の都合上②のみの実践となった。

④では、プレゼンテーションソフトの利用で習得したスライド作成の基本操作を、Keynoteで同じ操作ができるように、項目ごとに課題に取り組んだ。

本研修全体を通して、実際に端末にふれる機会を多く設定し、自ら学べる環境を整えたことが、研修の實りに繋がったと考える。

### 研修②【Google システム活用スキルアップ】

目的：Google Workspace for Education のツールとオンラインクイズツールを連携させ、病弱の児童生徒一人ひとりの学習状況や特性に合わせた個別最適な学びと、主体的な学習活動を支援できるスキルを習得する。

参加：教員 6 名

内容：子どもが学んだことをもとに、他の子どもと話し合っ問題を作ったり出し合ったりする活動について、ICT 機器やクラウドシステムを活用して支援する方法を学んだ。前半は基本操作演習で各コンテンツの操作方法を学び、後半は二人一組になって問題作成と操作を行い、最後にクイズ大会を開催した。本研修で得た知識と経験をもとに、子どもたちが互いに学び合える環境づくりを進めていきたい。



### 研修③【AI の教育活用について】

教育現場における AI 活用の可能性と課題について理解を深めた。前半では、ChatGPT や Copilot などの AI ツールの基本機能を紹介し、校務や授業支援への具体的な活用例を共有した。教材作成、翻訳、メール返信、画像生成など、業務効率化に役立つ操作を体験したことで、実践的な活用のイメージを得ることができた。後半では、AI の誤情報や偏見、著作権・個人情報の取り扱いに関する注意点を学び、教育的配慮の重要性について意見交換を行った。さらに、探究活動や生徒支援への応用を試みるワークを通じて、AI を“うまくサボる”ためのツールとして捉える視点を得た。今回の研修は、AI を教育に取り入れる際の留意点と可能性を再認識する有意義な機会となった。

## 4 次年度に向けての課題とまとめ

本年度の ICT 研修では、教員の習得状況やニーズに合わせ、「ボトムアップ」「スキルアップ」「先端技術 (AI) の理解」という 3 つの切り口で実施した。それぞれの研修において、実際に端末を操作する演習中心の構成にしたことで、参加者が具体的な活用イメージを持ち、日々の教育活動に直結するスキルを習得する有意義な機会となった。

### (1) 各研修の総括と成果

研修① (ボトムアップ)： マニュアルや動画を活用した自学自習形式を取り入れたことで、各教員が自身のペースで着実に基本操作を習得できた。視認性の高いスライド作成の要点を共有したことは、今後の教材の質向上に大きく寄与すると考えられる。

研修② (Google 活用)： クイズツール等との連携による双方向的な学習支援を体験したことで、病弱教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を ICT 機器でどう具現化するか、具体的な手法を共有することができた。

## II 校内研修

研修③（AI 活用）：業務効率化のツールとしてだけでなく、教育的配慮や倫理的課題についても議論を深めた。AI を「適切に使いこなす」という視点を得たことは、教員の働き方改革と授業改善の両面において大きな一歩となった。

### （2）次年度に向けての課題

本研修を通じて、以下の課題が明確となった。

活用レベルの継続的な平準化：基本操作については一定の成果が見られたが、研修①で時間の都合上実践できなかった応用操作等、個々のスキルに応じた継続的なフォローアップが必要である。

実践事例の蓄積と共有：研修で学んだ手法を実際の授業や校務でどのように活用したか、その成功事例や工夫を組織内で日常的に共有できる仕組み作りが求められる。

AI 活用のルール整備と試行：生成 AI については、利便性とリスクの両面を理解した上で、校内での具体的な利用ガイドラインの検討や、生徒への情報モラル教育との連動を視野に入れる必要がある。

### （3）結びに代えて

ICT 機器はあくまで手段であり、その目的は「児童生徒一人ひとりの学びの充実」と「教員の専門性の発揮」にある。次年度以降も、技術の進化を柔軟に取り入れながら、本校の特性である病弱教育の専門性を高めるための ICT 活用をさらに推進していきたい。